

H31 「常南っ子」 174 名 〈明治 39 年開校以来最多児童数〉



入学式の校長式辞で、新入生・保護者に次の 3 つをお願いしました。教育哲学者だった森信三（愛知県知多郡武豊町出身・京都帝国大学卒）氏の提唱された「しつけの三原則」（挨拶、返事、履き物をそろえる）、「家庭教育のしつけ基本三原則」をもとにしました。

1. 朝、必ず親に挨拶をする子にすること。
2. 親に呼ばれたら必ず、「はい」とはっきり返事のできる子にすること。
3. 履き物を脱いだら、必ずそろえ、席を立ったら必ずイスを入れる子にすること。

これら 3 つのしつけが身に付くと、子どもの「我」が取れるそうです。「我」が取れるということは、素直な気持ちになるということであり、心の受入れ態勢が整うということです。しつけのきちんとできている子どもは、将来、必ず伸びます。

「あいさつ」は、人間関係の潤滑油のようなものです。相手に対して素直でないと、なかなかあいさつはできないものです。あいさつができるというのは、相手を尊重する心があるからです。「笑う門には福来たる」と言いますが、あいさつする門にも福がきます。次に、「はいと返事のできる」子どもは、「いいえ」もきっぱり言えるようになります。つまり、「はい」と返事ができるというのは、自分の主体性を持ち、相手の話をきちんと聞ける姿勢ができているということです。こういう子どもも将来、必ず伸びます。最後に、「履き物をそろえる」、今まで履き物を乱していた子どもが、履物をきちんとそろえるようになると、生活そのものが変わります。だらだら生活していた子どもが、けじめのある行動を取るようになります。そして、乱れた生活が引き締まってきます。勉強しなかった子どもが勉強をするようになり、親に口答えをしていた子どもが素直に耳を傾けるようになります。やる気のなかった子どももやる気を出すようになっていわれています。